



大和名所圖會 二

部	
類	
冊	號
架	函
—[三宅氏藏書]—	

ル 4  
4695  
2





門  
號 4695  
卷 2



大名所圖會卷之二

百萬過子  
 去肪松  
 松本昆沙門  
 後惠屋敷  
 頼長墓  
 善城寺 春日御  
 雲井坂  
 轟橋  
 猿澤沈  
 寺  
 添上郡目錄  
 華影山  
 南圓堂  
 藤大  
 采女河  
 十三鐘  
 佐保川  
 函石阪  
 千坊阪  
 珠光之茶室  
 初宮明神  
 韓神祠  
 熾魔堂  
 一葉院  
 衣懸柳  
 龍燈松  
 奈良坂  
 般若寺 十三重石塔  
 阿閉寺  
 祇園社  
 佐保殿蹟  
 率川阪本陵  
 輕子社  
 大井  
 鹽瀨趾  
 尼池  
 威德井  
 空海寺  
 益率都婆  
 般若野  
 藥弱橋  
 楊貴妃櫻  
 大葉院  
 花之井  
 大葉院

早稲田大学 図書館  
昭和 36. 6. 21 受  
藏 書



久秀城跡  
手分森  
飛二布宅  
光明院蹟  
裸大師  
誕生寺  
安養寺  
能登川  
紀寺  
赤極社  
鏡祠  
海龍王寺  
倭文社

眉間寺  
興福尼院  
默阿弥宅  
可須理井  
小塔院跡  
傾城町  
極樂院  
富士権現  
鬼界  
不空院  
勝願院地蔵  
元明帝陵  
楊梅陵

佐保山南陵  
率川社  
飯殿西  
手力雄祠  
豐成公塔  
悲田院  
御靈祠  
道祖神  
頭塔  
隔夜堂  
不退寺  
元正帝陵  
沽向泉

大石 説七足菴  
率川の波社  
大宿所  
阿字元字西  
飛鳥井  
紹也屋敷  
元興寺  
魚養墓  
法名  
新薬師寺  
法善寺 栞苗堂  
辰市社  
大安寺四蹟

柏木社  
深谷溪  
天乃石社  
名張川  
烽火山  
和爾社  
藤原  
虚空藏寺  
人磨墳

真聖萩原  
平法多  
表布社  
桃香野八幡  
宅布世社  
穴次社  
帯解地蔵  
清澄池

中川寺  
氷室舊趾  
早八飛泉  
八丈巖  
永井池  
崇道皇陵  
治道社  
菩提山

忍辱山  
柳生營  
桃香野河口  
光仁帝陵  
和珥池  
八嶋寺  
龍眼寺  
柳本寺





八重様  
 古今  
 古  
 今  
 都  
 色  
 花  
 二の所門  
 寺





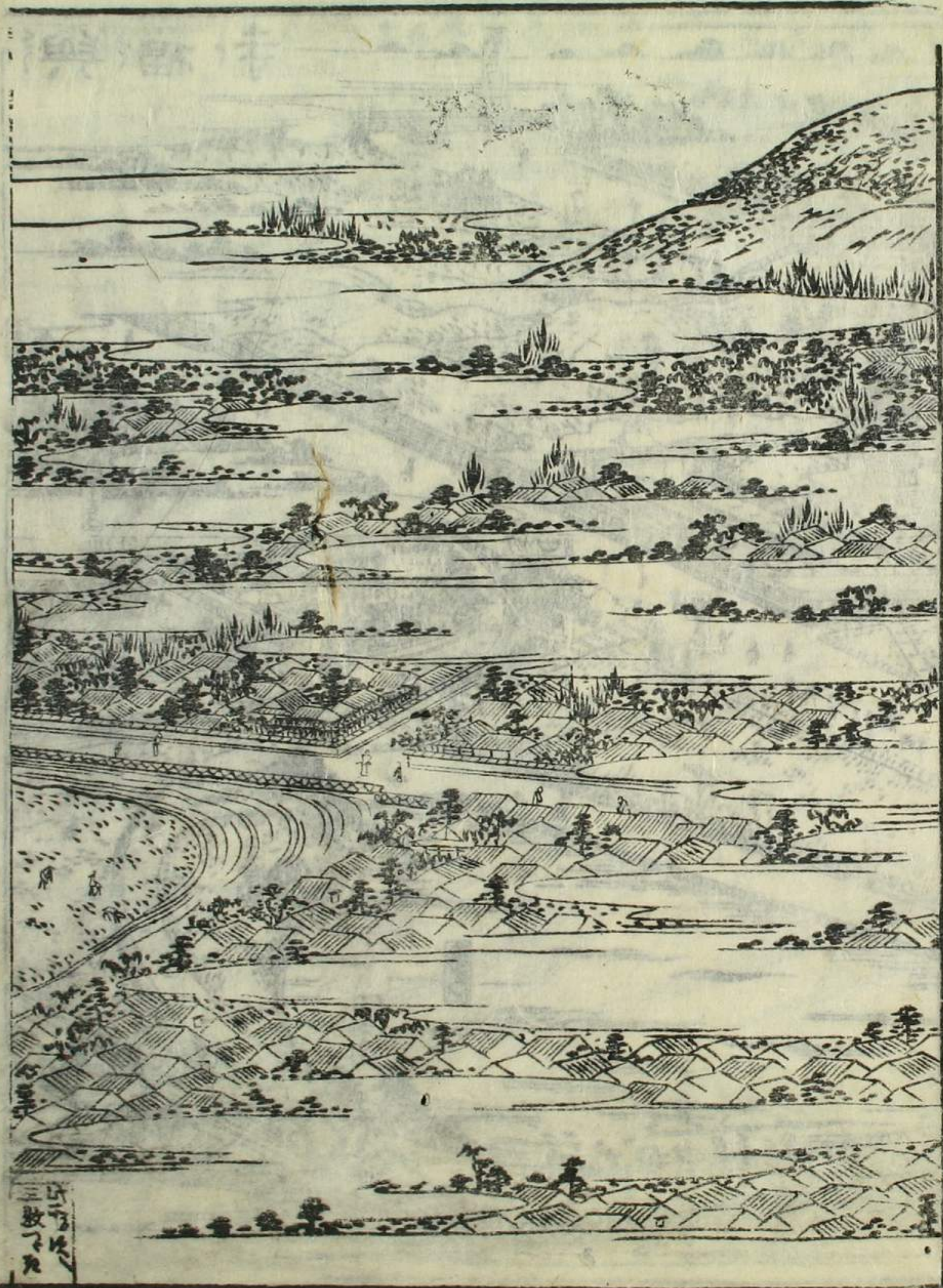




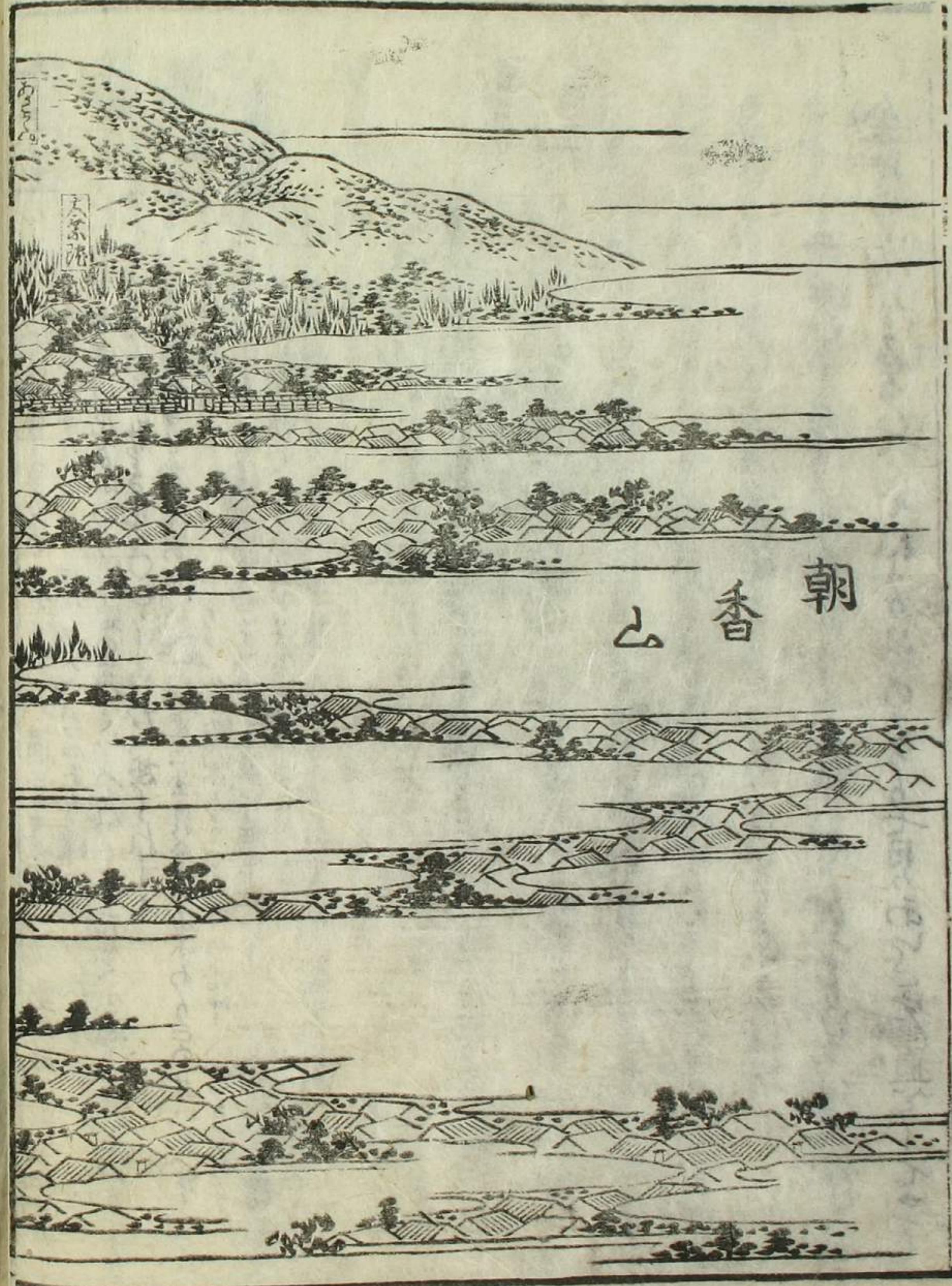






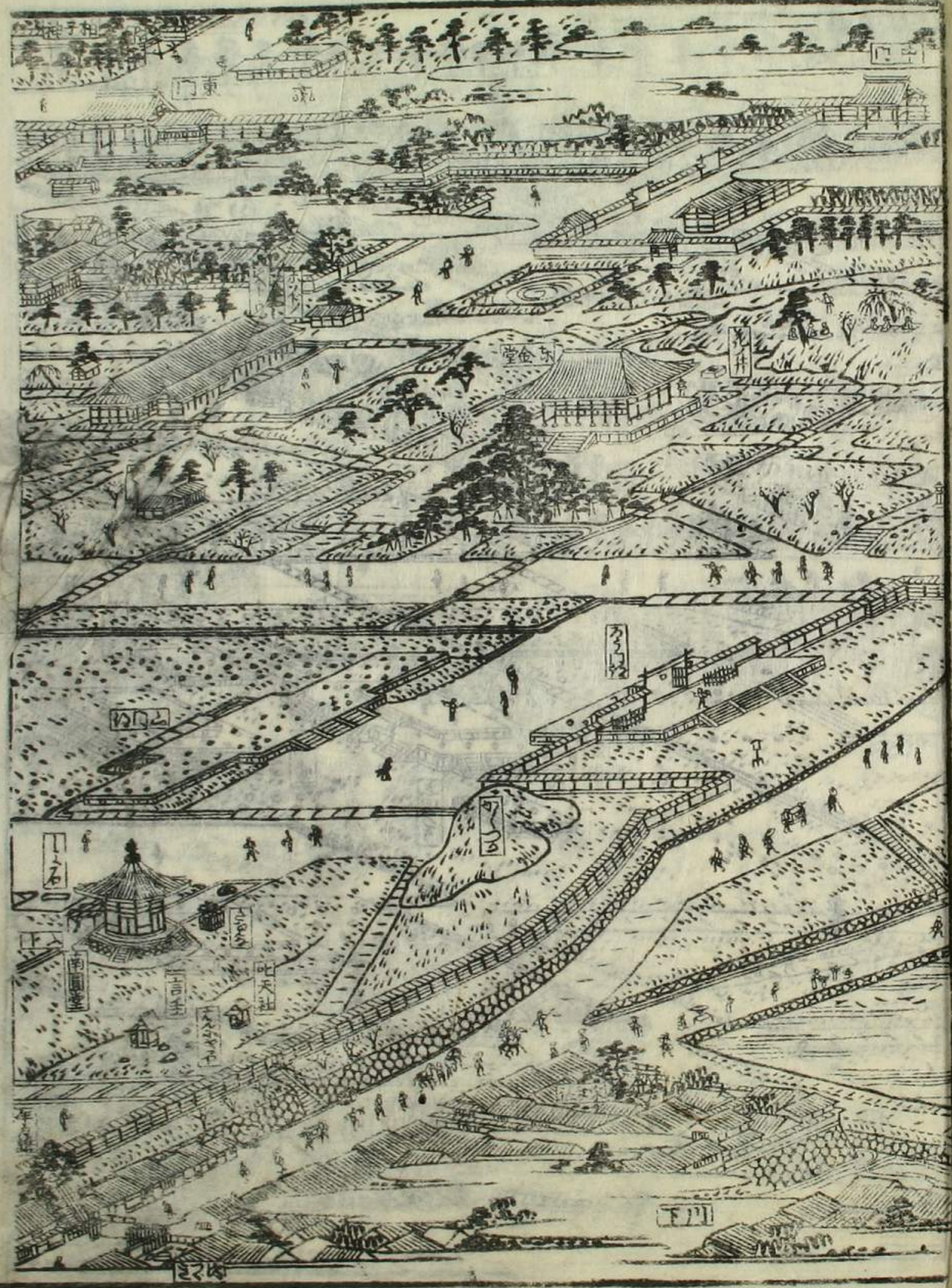


三  
教  
下  
院

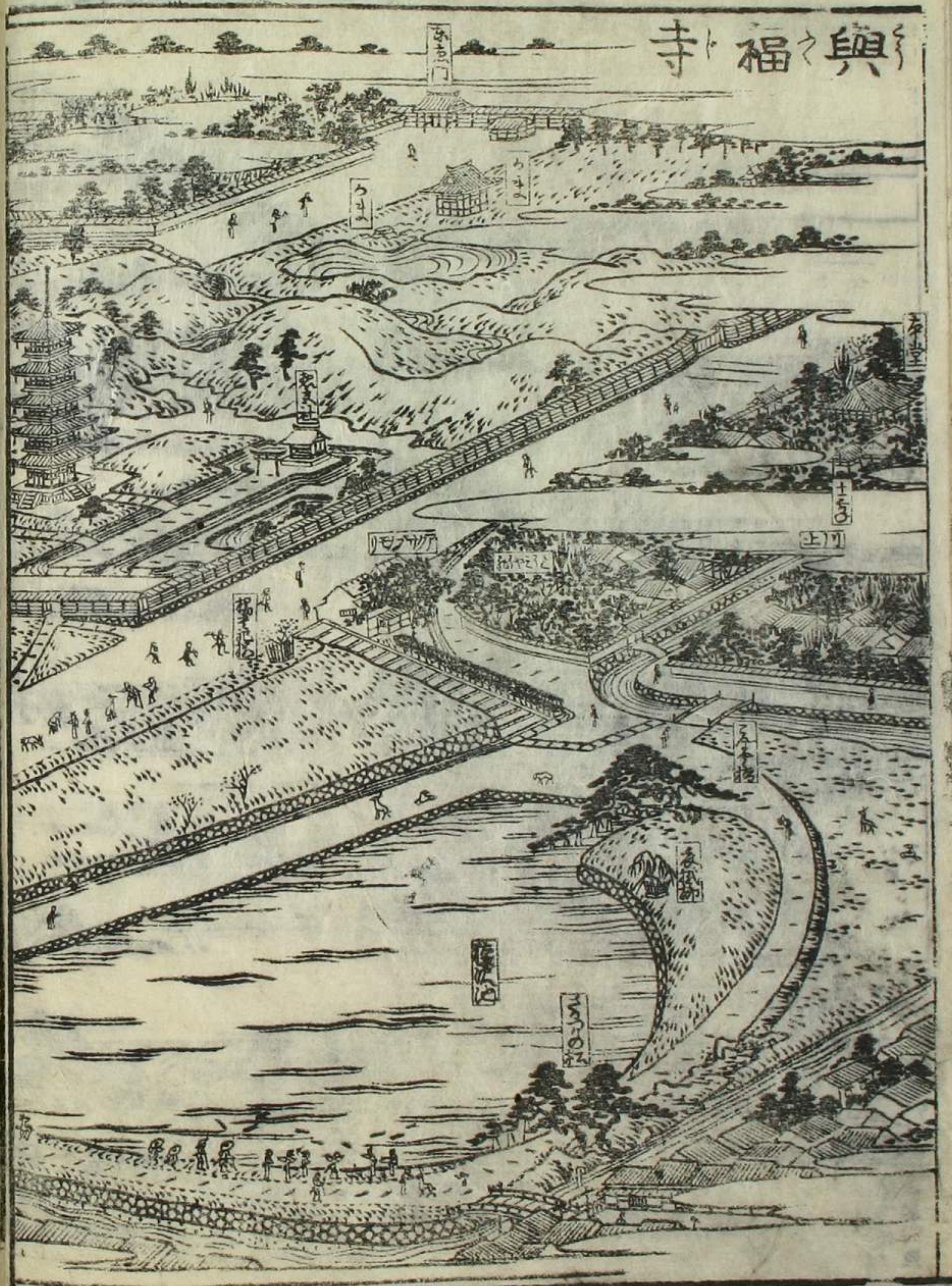


朝  
香  
山

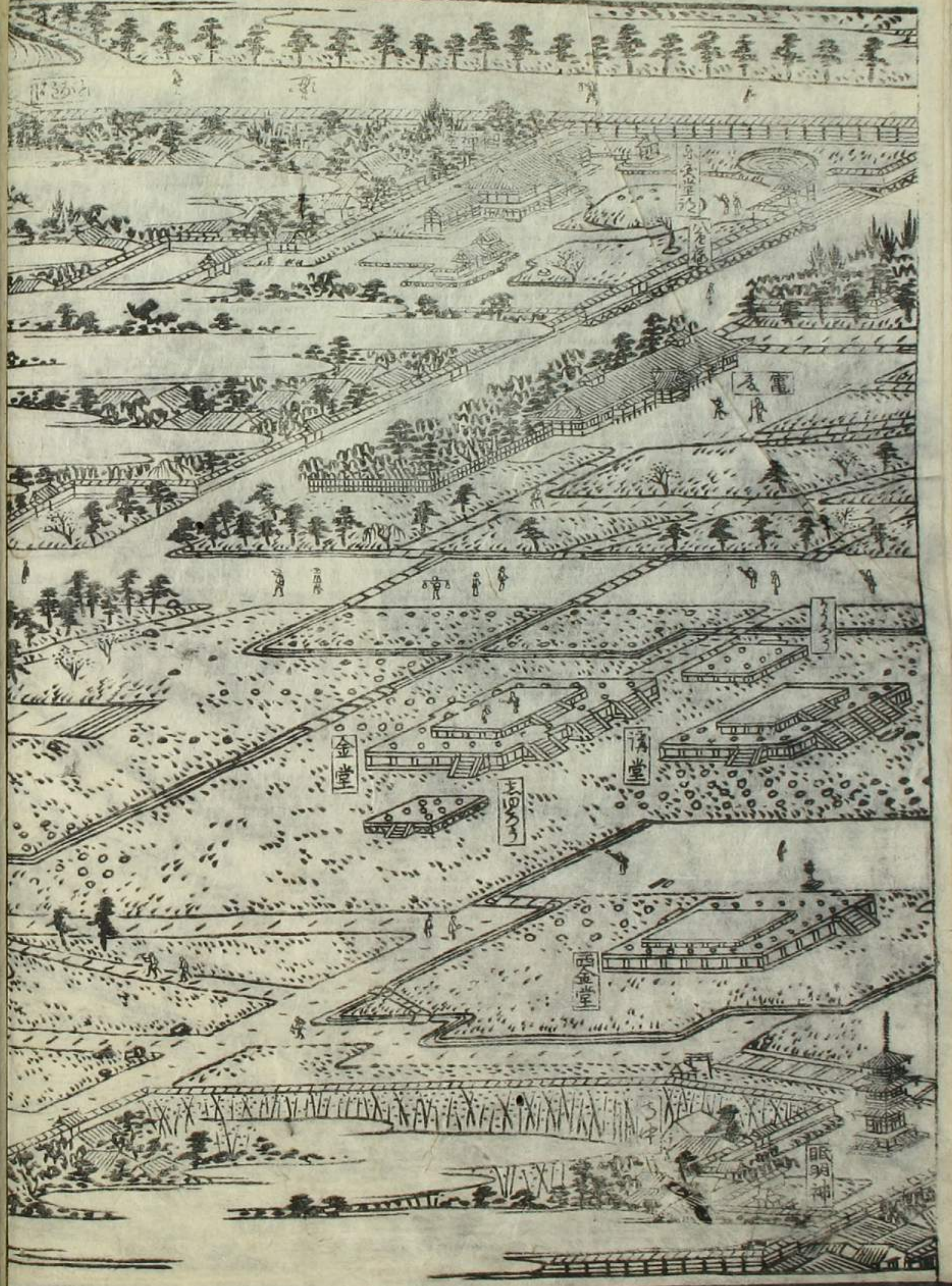
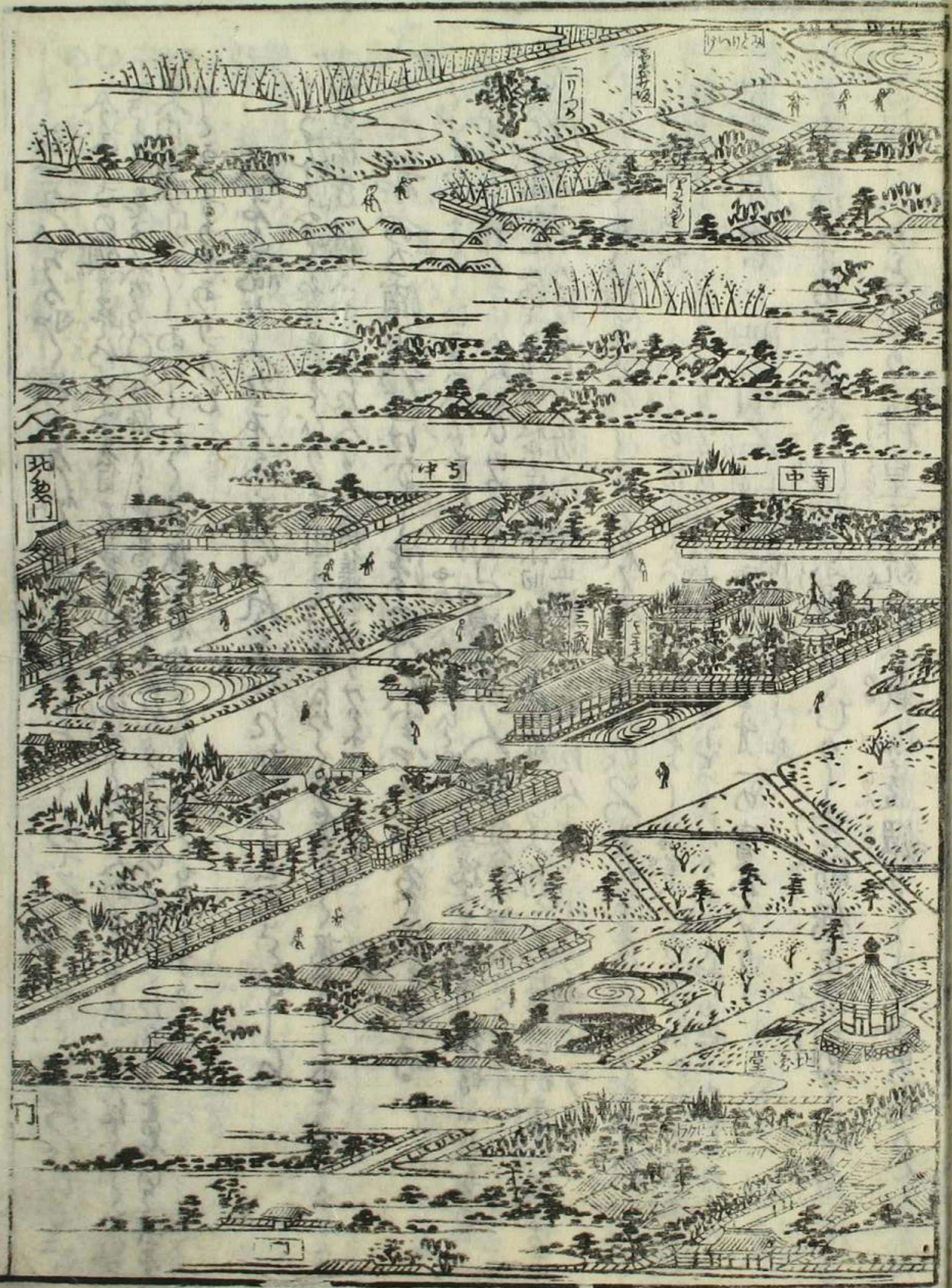




興福寺













# 薪火能

紀事三白

南大入ふ於く薪火能の  
くしやうの真後三月の  
法會表法うれを寺僧  
春やふ堀けしうのち  
於く薪火能其光小能て  
俳優とが長衣の戯る  
其後四座の儀末とんて

むじ二月七日より  
十四日に至るまで  
紙がまゝ雨の降る  
るの様にも紙  
湿るり付くこと  
うりけの言を



能あり九月十日の  
五日四座をらる  
おむるん



舞入る  
糸女や  
そのの  
柳より  
凍傳









万葉  
あてし  
る丹吉

あいの  
おほら  
いん

ひと道  
いんあ  
り

宅守

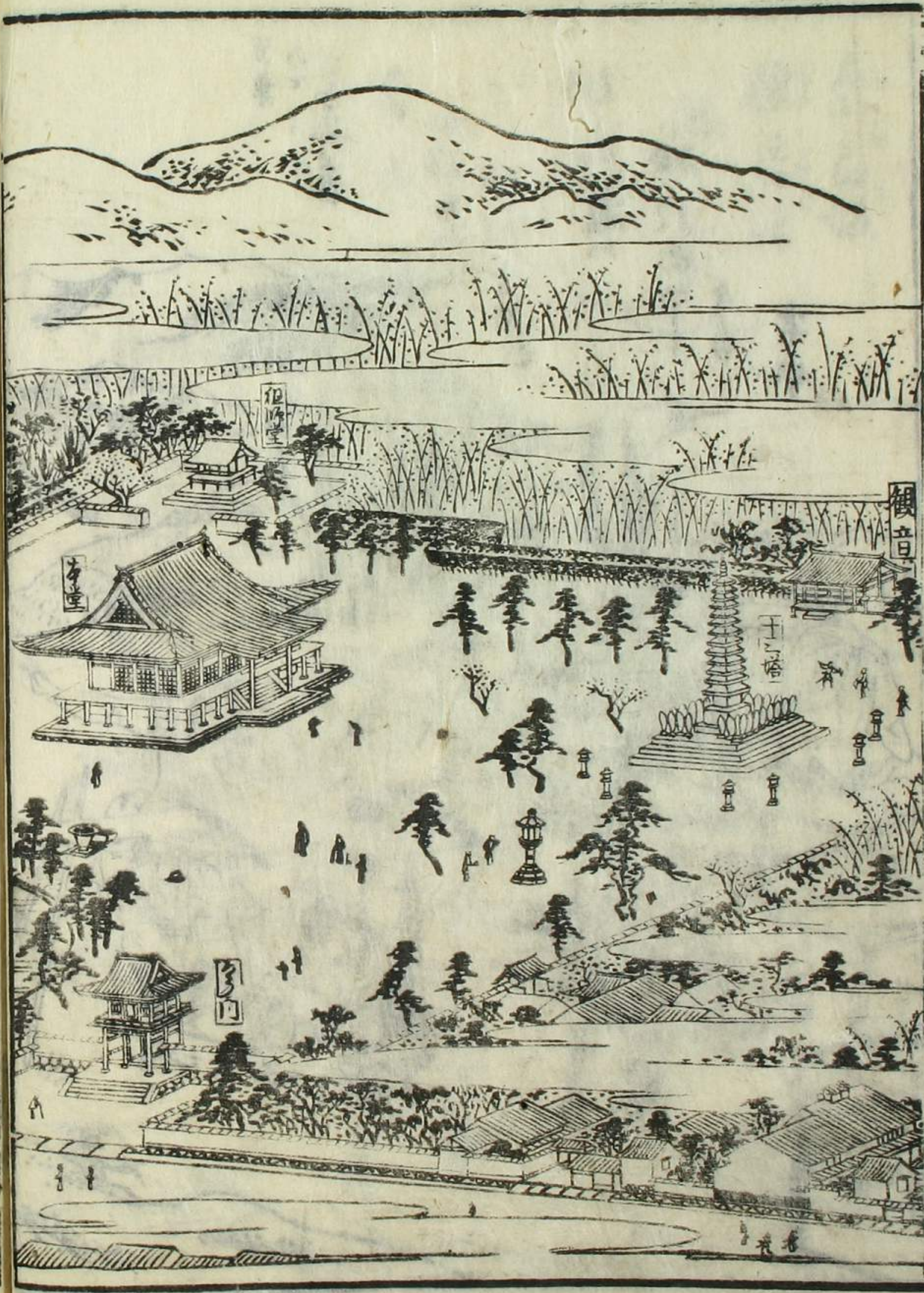


奈ら坂  
般若路  
酒車家

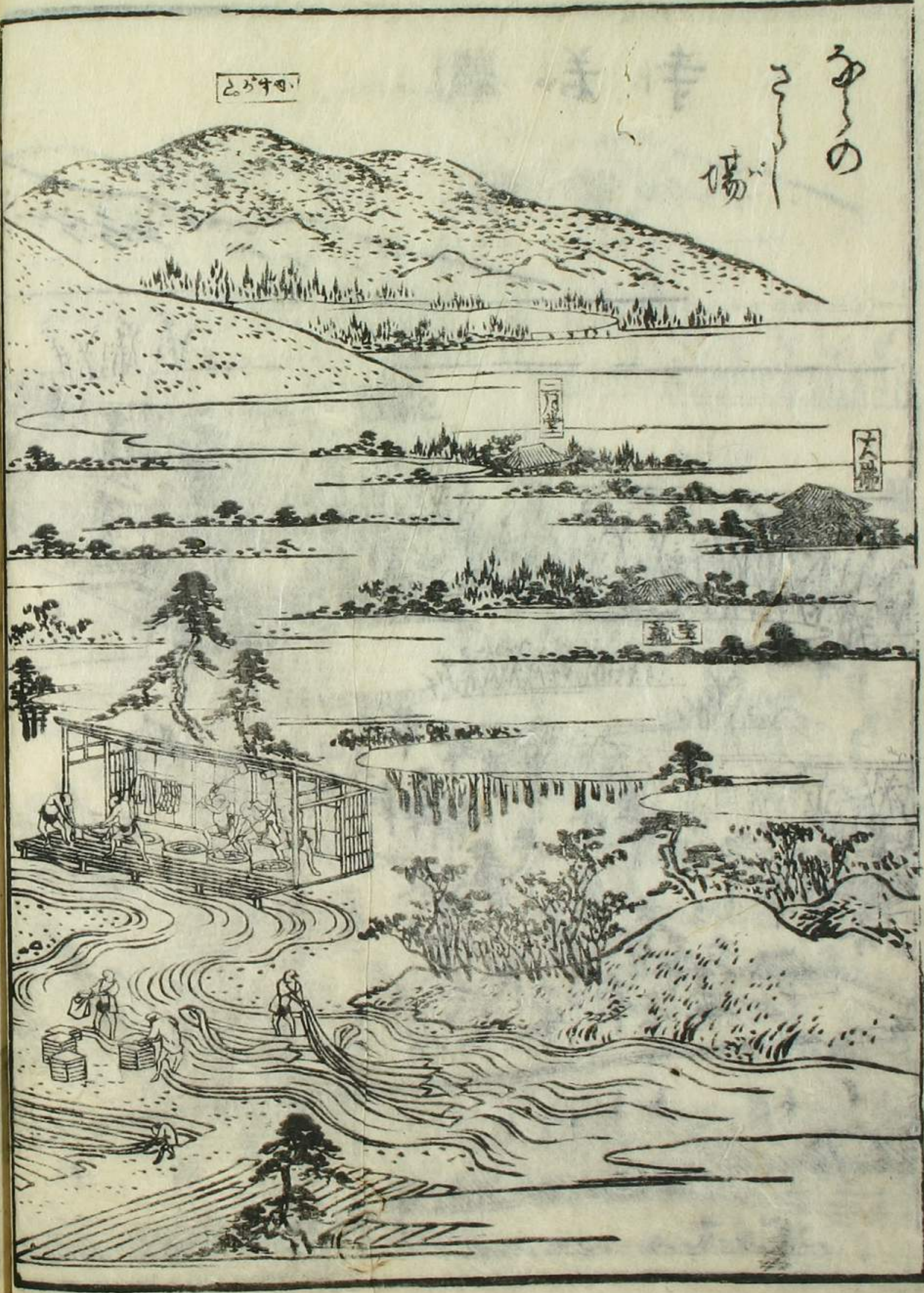
郡山



般若寺

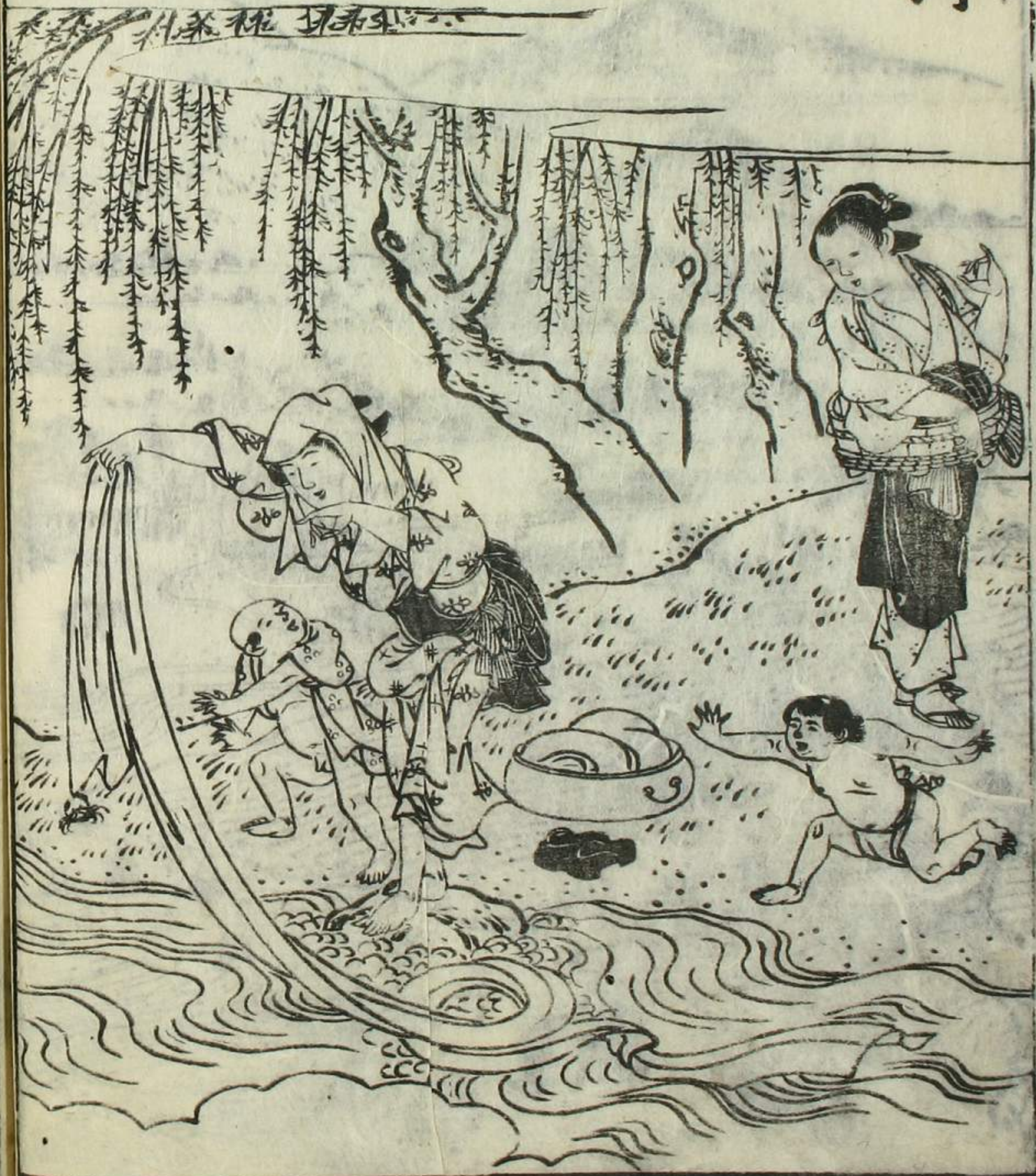








佐保川



佐保川

あの上

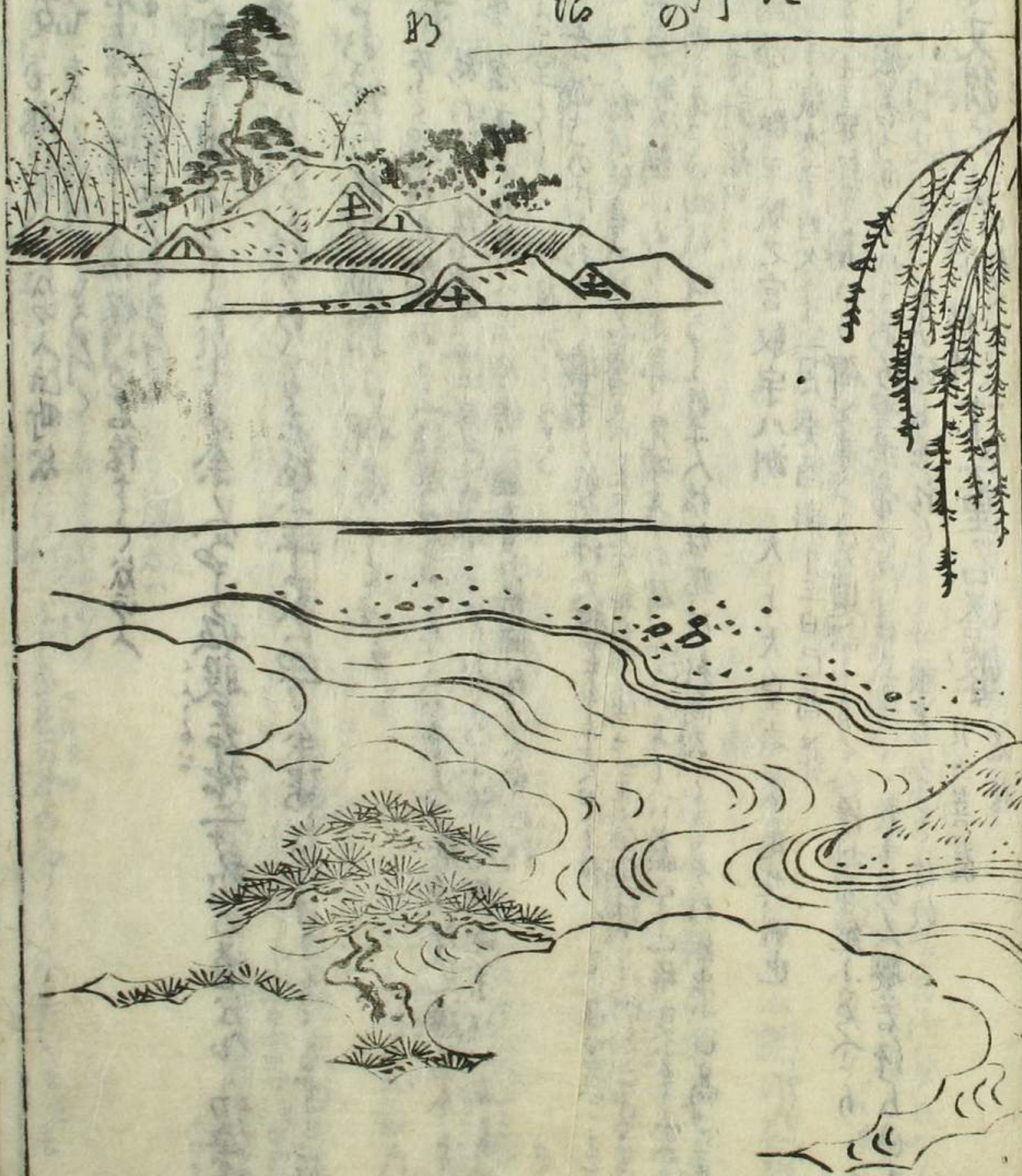
このみ

のけ

佐保川

の

あの上





奈良坂

南都北の入口なり

般若陀

又般若路とも云ふ

有都ふも老あささひ七ひ余人中般若陀二所の道なるゆ極備  
逆舟本は引くはげたりを極平家四方余路なるふかき、奈良坂

般若陀二所の城郭小押ありと云ふ

善城寺

奈良坂村にあり又他釋疑あり一東大寺乾の一院之礎石今なき  
跡あり今井小治所靈岸院の末より本寺より小陀陀釋迦某師と安んぬ

春日社

社名延喜式神名帳曰奈良坂春日神社一座之主人全主神は伊弉諾命  
春日社在側小あり是春日元明帝の御石なり一藏室二確良寺小あり

函石

春日社在側小あり是春日元明帝の御石なり一藏室二確良寺小あり

般若寺

般若寺在側小あり聖武帝の御建なり一刺書の大般若經の地を  
小納り其上十二所の塔を立せり一般若寺と稱し

本尊文殊大士の像

十二重石塔婆 九五菩薩 石像

觀者堂

本堂の傍小ありは堂は延徳二年の火災に免れ  
寺のいみじく言宗より一丈水の深より律宗と云ふ付寶小大塔宮所身心かく  
こむのひく危難なるれをみひは般若經の唐檀あり委に平定小あり又  
寺内小古代造立の石燈爐あり今石近般若寺形と云ふは模範なり今  
燈燈の青趣別記に書れは民家に移りてけ寺小あり

蓋率都婆

般若寺の南直に東院あり石柱を左右小あり九小諸切に  
右小集經の文と鐫石は勅撰の建なり

藤原頼長墓

今詳るは編年集城曰九大臣位一信長頼長保元七年  
七月十一日謀逆の時流矢小中同十四日奈良坂小死年三十七

千坊坂

般若寺の南ありは東北信賀國に至る  
中々鳴川ありは所病人の石あり村人これ小極よる時其徒小入りて  
奥と信院町の北北あり病人恒く村還の族小法なきや其

北山八間戸

般若寺の東側ありは本尊阿闍佛光明と云ふは昔光明皇后乃  
自若院町の東側あり本尊阿闍佛光明と云ふは昔光明皇后乃  
御建なり一側小悲田院は建あり一後日本紀小あり

阿闍寺

雜司村の東小あり久代弘法大師建立し一人洞中にて石像の地蔵あり世  
人穴の地蔵と云ふ又謬く假名の地蔵と云ふ弘法大師平假名四十八字の  
製しつる小附會しつる名に信と云ふ足り享保年中寂真と云ふは再興して本  
堂惣門庫裏あり

空海寺

雜司村の東小あり久代弘法大師建立し一人洞中にて石像の地蔵あり世  
人穴の地蔵と云ふ又謬く假名の地蔵と云ふ弘法大師平假名四十八字の  
製しつる小附會しつる名に信と云ふ足り享保年中寂真と云ふは再興して本  
堂惣門庫裏あり

後惠屋敷

日所の南成福院小あり後惠  
任生三位家隆卿之

後惠屋敷

日所の南成福院小あり後惠  
任生三位家隆卿之

後惠屋敷

日所の南成福院小あり後惠  
任生三位家隆卿之

後惠屋敷

日所の南成福院小あり後惠  
任生三位家隆卿之

後惠屋敷

日所の南成福院小あり後惠  
任生三位家隆卿之

後惠屋敷

日所の南成福院小あり後惠  
任生三位家隆卿之

後惠屋敷

日所の南成福院小あり後惠  
任生三位家隆卿之





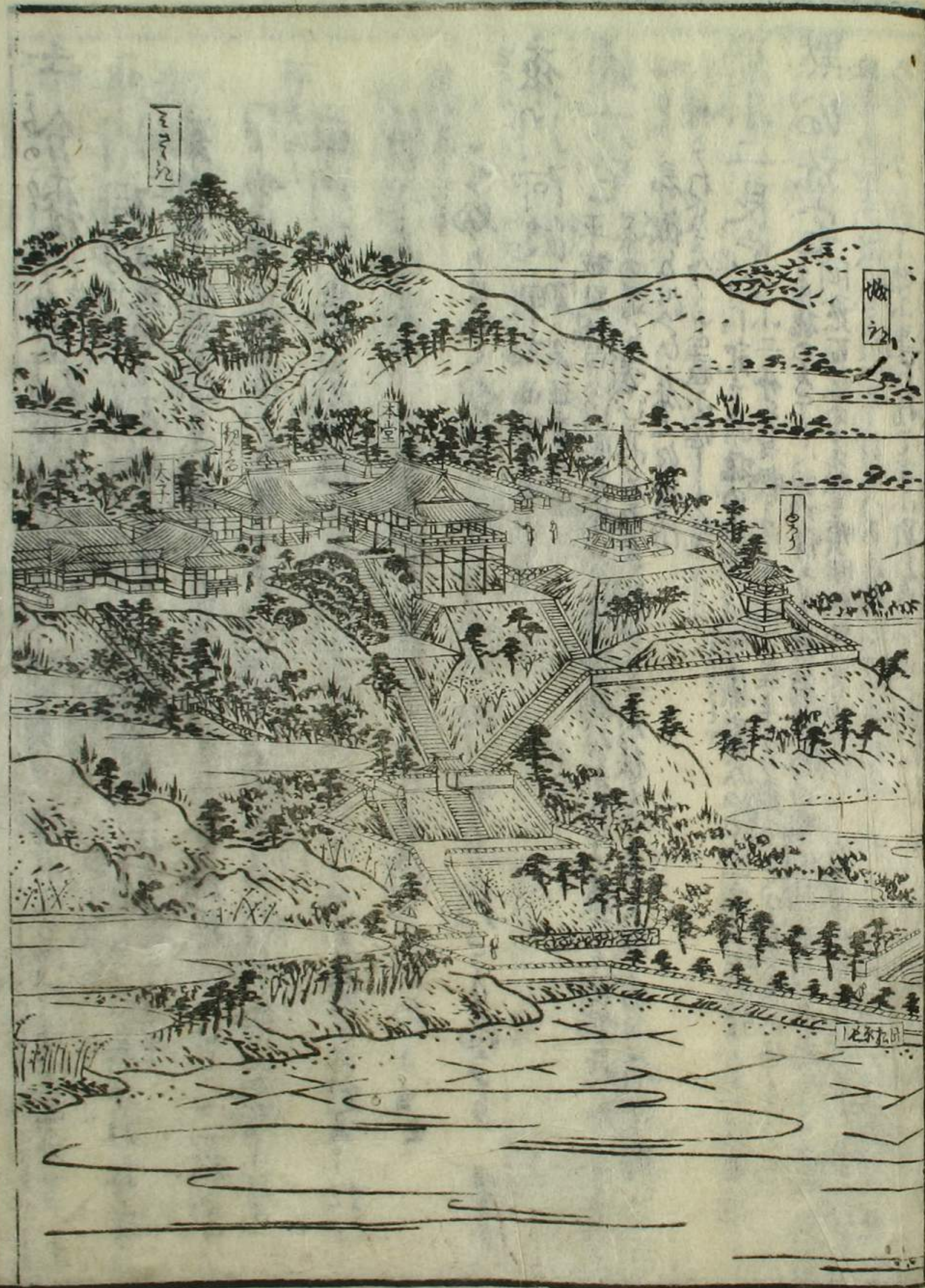




善城寺







眉山寺

多門山々  
松永久秀の  
城跡也





手分森 下二條町南御小町のありし神城皇宮に韓退治の時時住吉大明神と人將

率川祠 子守町小町土人子守社と申す延喜式曰率川坐大神御子神社二座云

率川系上西日比系春日系のありし神紙今小のとるに枝みよ

率川社春日の神社小のありし神紙今小のとるに枝みよ

はる天下のありし神紙今小のとるに枝みよ

率川阿波神社 西城戸町あり

道六宅 平城趾跡曰小川町東御北の端川の側は家なり入道といふ其姓氏を御常

飛小二良家 日記之角振の表四辻の押原家なり小二良の御代に御常といふ

黙の弥宅 同然の家の名聲順昭の御代に御常といふ

飯飯殿町 利安の月日小姓の御代に御常といふ

大宿所 十月曾小龍田の御代に御常といふ

光明院遺蹟 門町南光明院西の山側小地番堂

可須理井 橋本町小あり弘法大師の御代に御常といふ

手力雄神祠 下河内町あり

阿字元字町 一院の遺蹟あり

くさりの杖の八つをたつる若れうらほの志のいふことらに

櫛兼和詞集云 光明院小は法華經の神紙のありしとすくは侍りよ

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり

ハツ秋のころなるあり



裸大師

高僧所會所小あり弘法大師の作といふ

小塔院

姓新所小あり元貞寺の一院なり

法華寺

法華寺に在りて小あり

頭上

頭上に一柱あり

終る

終る其時法華院内小あり

梵名

梵名を味とす

み

みとす

豊成

豊成は塔

飛鳥井

飛鳥井は白土

誕生寺

誕生寺は二棟

誕生水

誕生水は

南都の傾城

南都の傾城所

虎藏

虎藏は竹

蔵

蔵は

悲田院

悲田院は

安養寺

安養寺は

紹巴屋敷

紹巴屋敷は

極樂院

極樂院は

御靈祠

御靈祠は

元興寺

元興寺は

飛鳥寺

飛鳥寺は

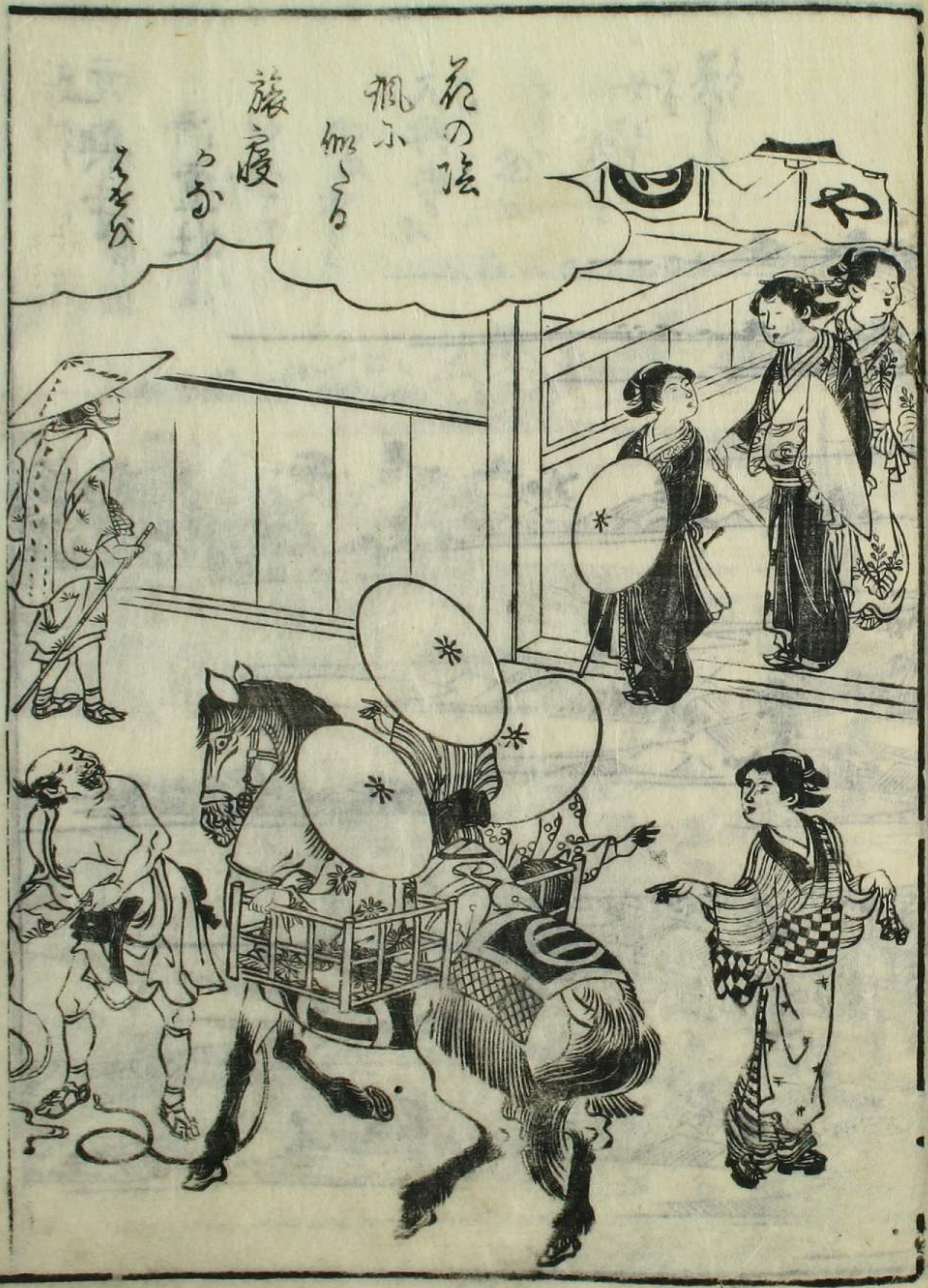
靈本

靈本は

長谷

長谷は





花の弦  
 楓小  
 旅度  
 つか  
 こそか



鳥声非故國  
 春色是他郷









徳政拾遺  
五月廿九  
弟の茶心  
焼  
み  
ふ  
夏  
の  
涼  
早  
蕨  
大  
雨  
言  
の  
實







赤穂神社 下ろ畠町新井あり神燈臺石小

不空院 春日若宮村坊社あり僧鑑真開基あり

隔夜堂 二畠町の東丹坂町あり開基空也上人とむり道人の供申す

新薬師寺 不空院の子孫あり神願記曰聖武天皇御成化の御時

鏡神祠 大和春日新薬師の末小ありを神

勝願院地藏堂 坂町南平系は子小あり

不退寺 不空院の末ありを平城天皇の御成化の御時

法善寺 光明皇后は子孫あり

榎笛堂 建武の御時あり

海龍王寺 法善寺の東北の方より

元明帝陵 桓廼二十九年

元正帝陵 桓廼二十九男

石市社 大妻村の末あり春日

新田と秋田と

倭文社

楊梅陵

春日若宮村坊社あり僧鑑真開基あり

不空院の末ありを平城天皇の御成化の御時

新薬師寺の末ありを平城天皇の御成化の御時

鏡神祠の末ありを平城天皇の御成化の御時

勝願院地藏堂の末ありを平城天皇の御成化の御時

不退寺の末ありを平城天皇の御成化の御時

法善寺の末ありを平城天皇の御成化の御時

榎笛堂の末ありを平城天皇の御成化の御時

海龍王寺の末ありを平城天皇の御成化の御時

元明帝陵の末ありを平城天皇の御成化の御時

元正帝陵の末ありを平城天皇の御成化の御時

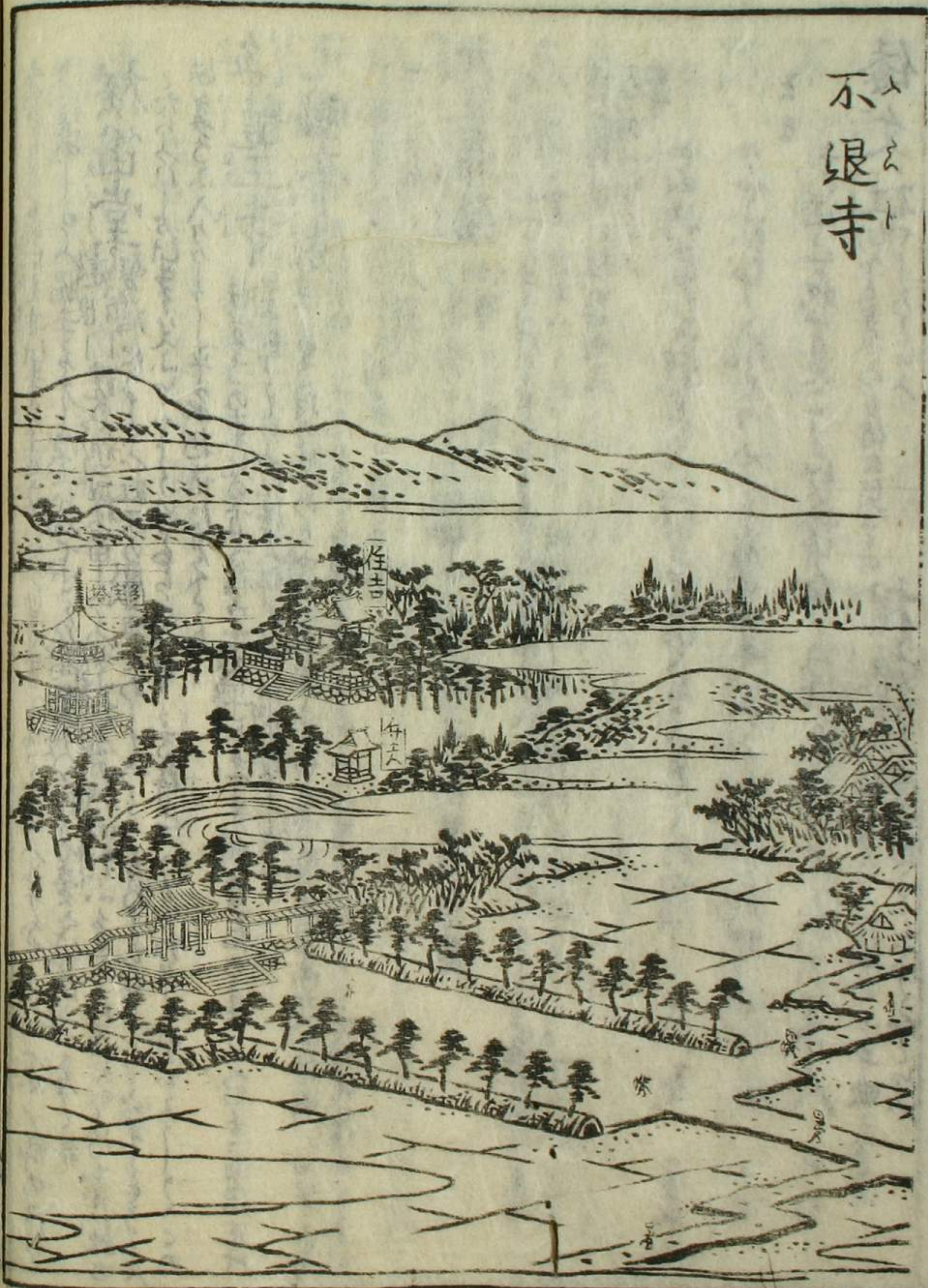
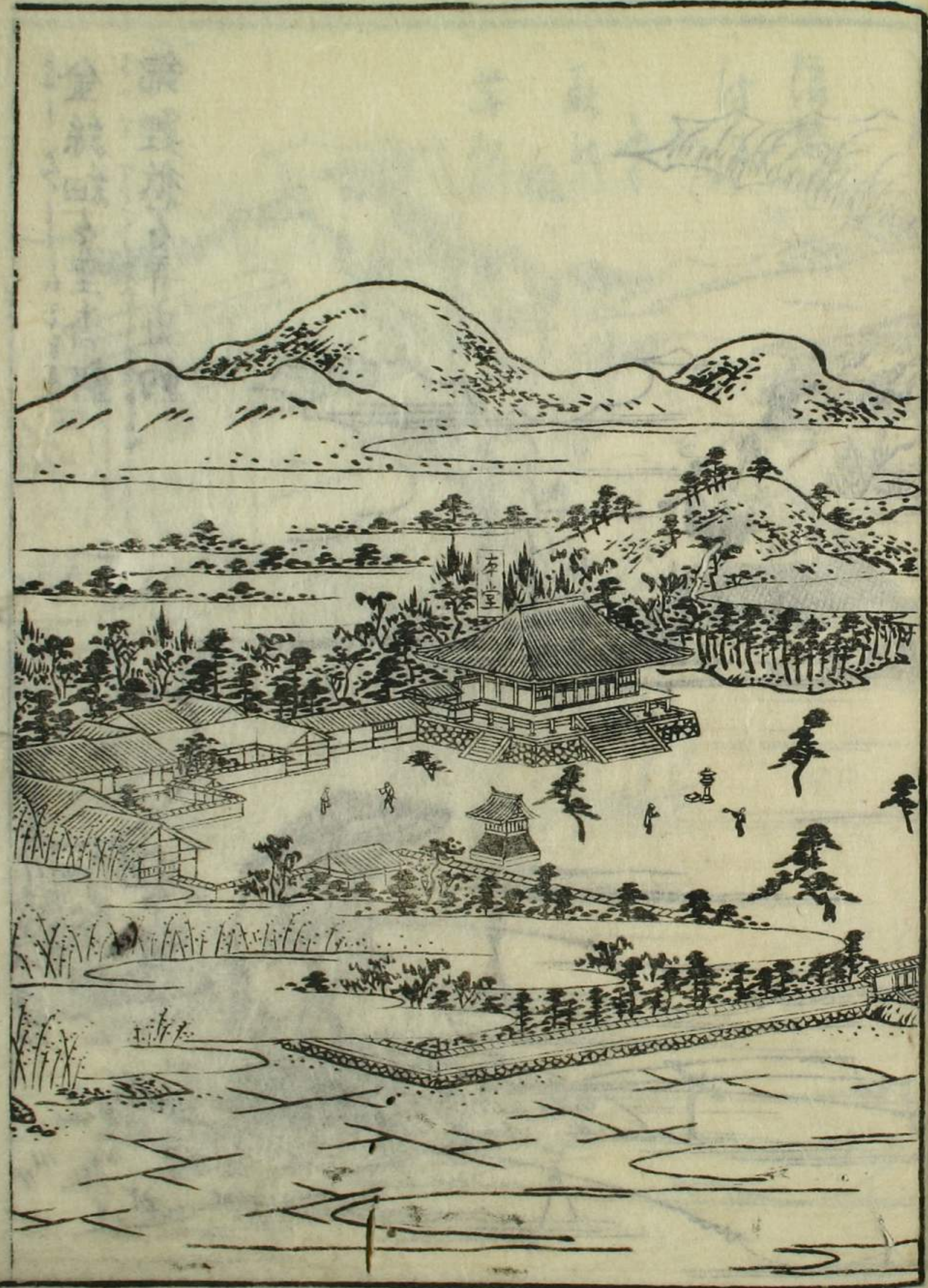
石市社の末ありを平城天皇の御成化の御時

新田と秋田との末ありを平城天皇の御成化の御時

倭文社の末ありを平城天皇の御成化の御時

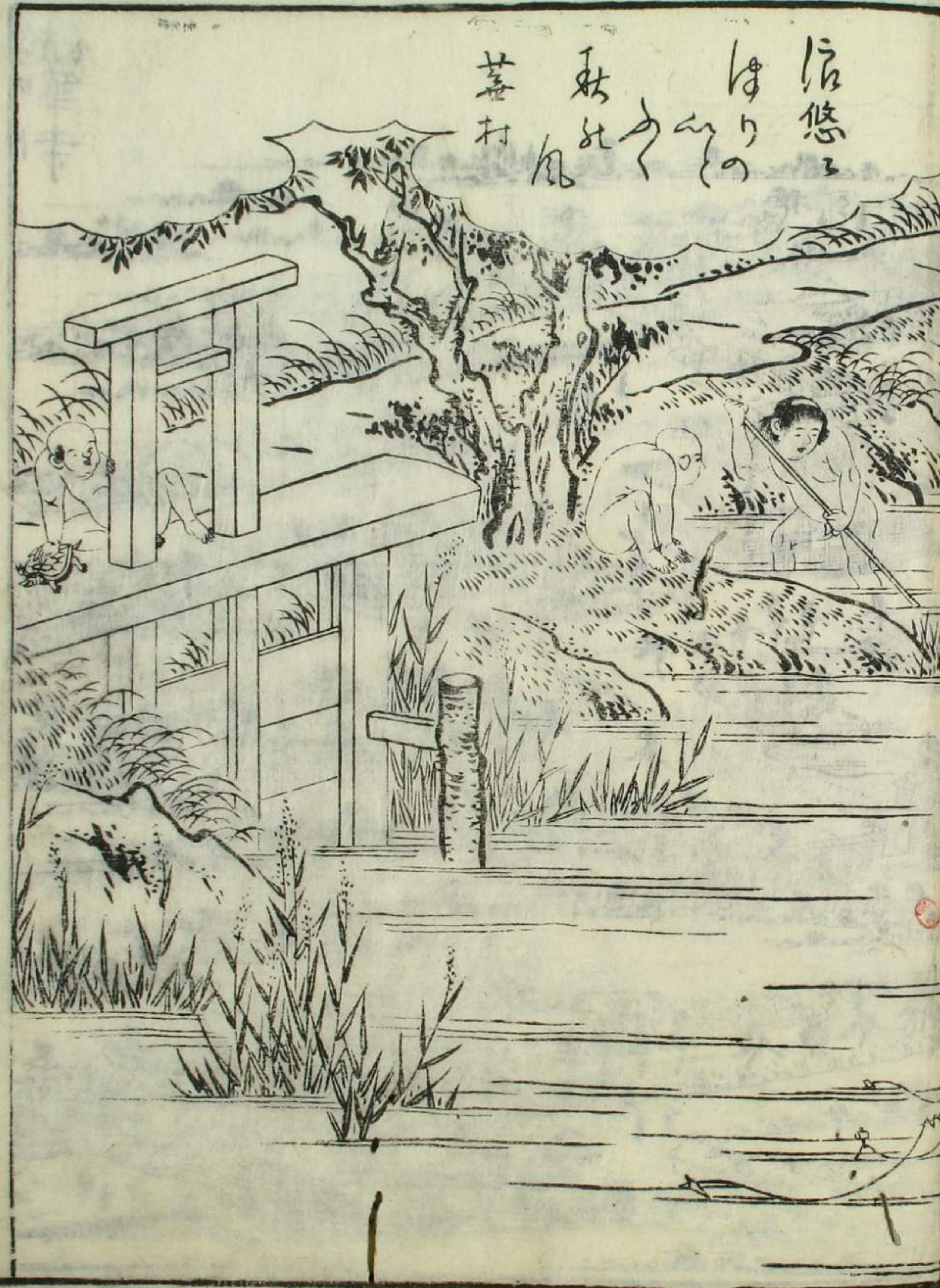
楊梅陵の末ありを平城天皇の御成化の御時





不退寺





信悠子  
ほりの  
あひの  
秋風  
暮村



金糸細々垂香餌  
錦鯉悠々弄直釣





法華寺





玉葉

春日新小

うら

わん

こ

こ

こ

いんや

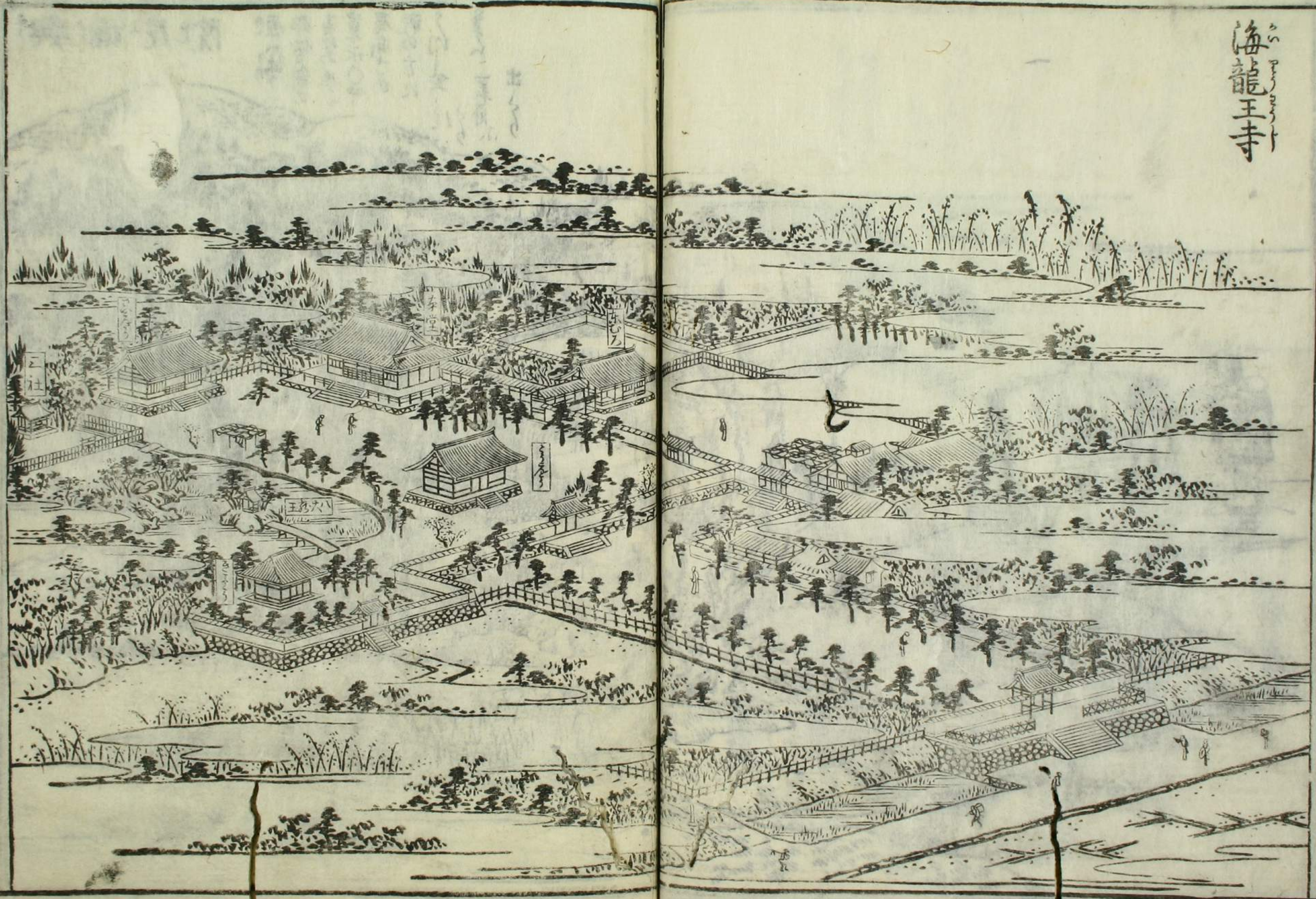
うら

常盤井入道

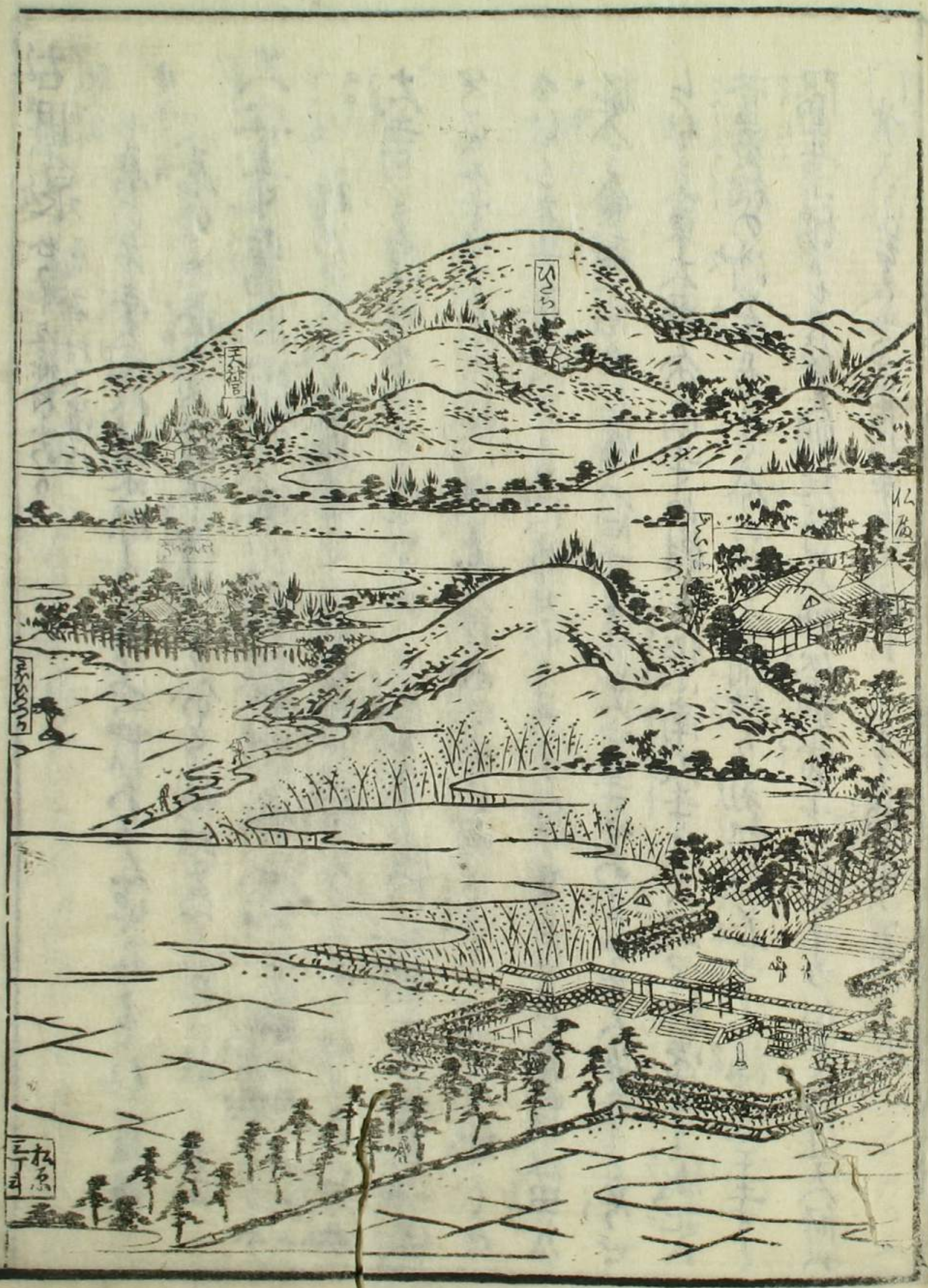
龍大政大臣



海龍王寺







興福院

原の  
那依の園の  
ありあり  
寛永の  
扇向の  
乾の方  
うの  
まの  
出

















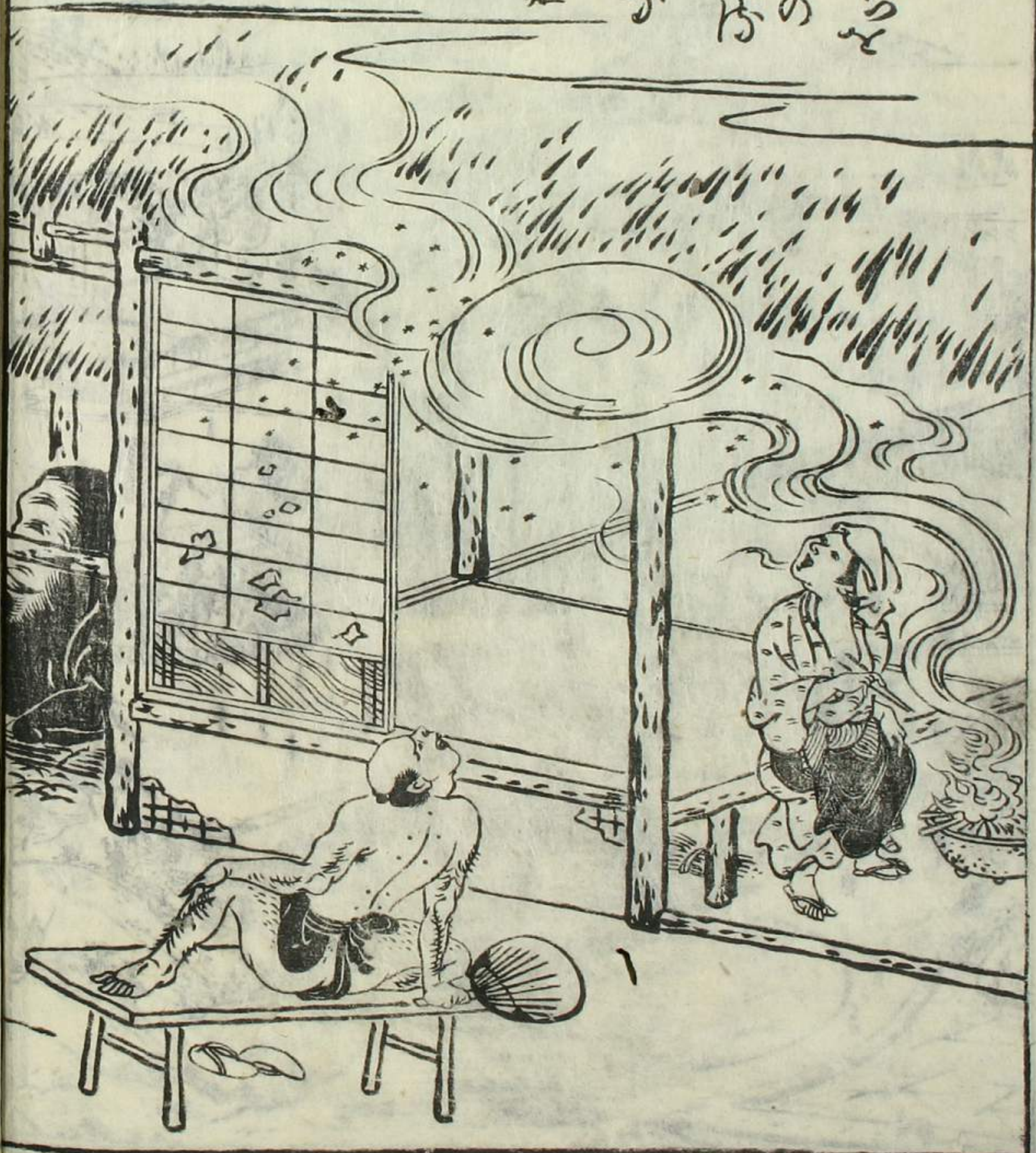




正愛炎天暮日類  
飛蚊擾々復如雷

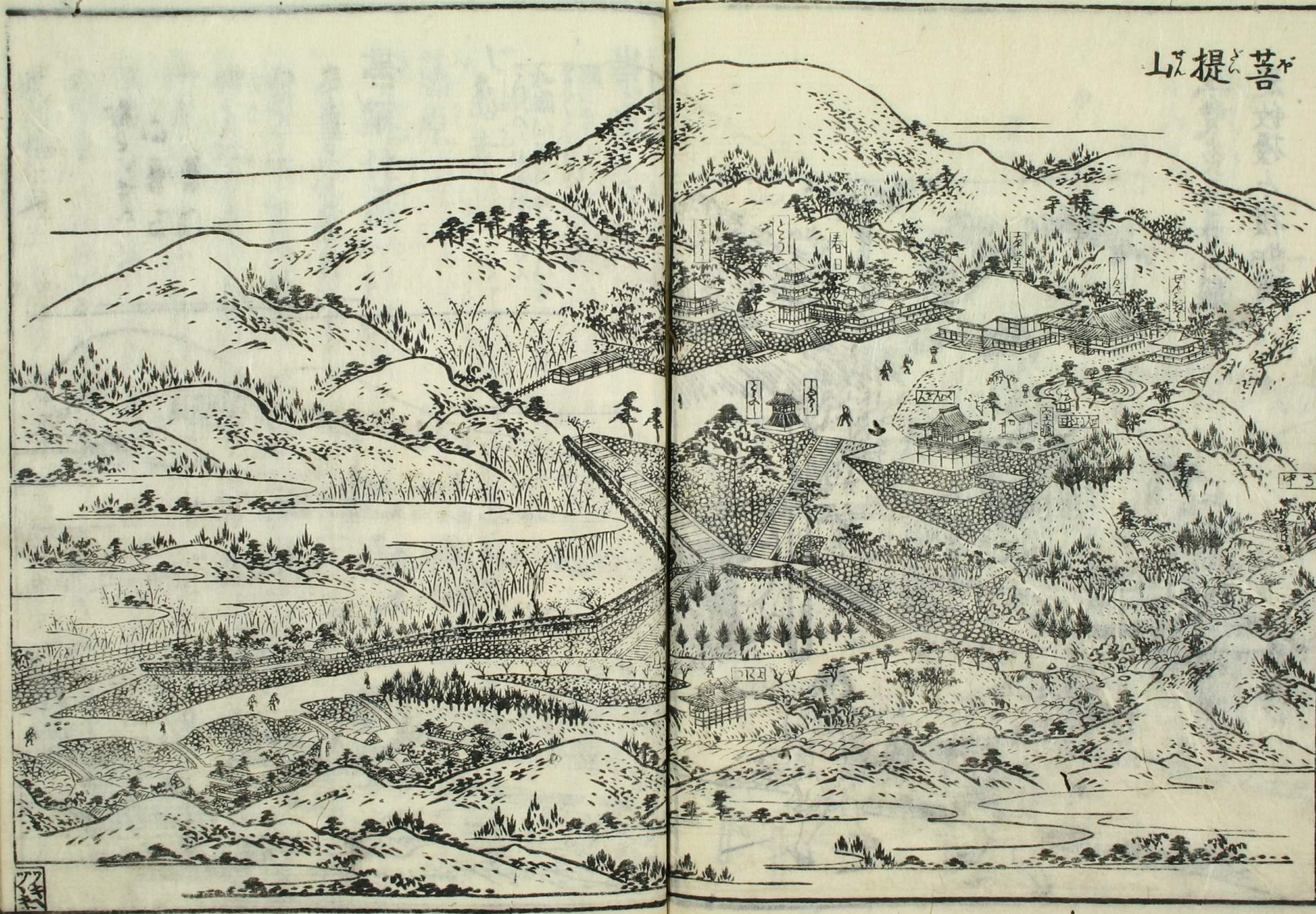


蚊  
夕  
常  
矩





菩提山





おこいせん  
心曆と  
懸門



崇道天皇陵

古平村小ありは天皇の極武の皇孫なり  
 國小なるを配所とてかくとせむ人神憤りたるより  
 多く死すり帝靈たのむと勅使の使格國へ  
 和國に陵に収められたと水鏡小にあり

名島寺

今さらるるは延暦寺より小遣宮ありと勅がさし  
 け寺にあらるる崇道天皇小の横のふけり  
 藤原村の名を以て名島郷小あり

帯解地蔵

今さらるる村小あり  
 俗小帯解とあり

奉尊の地蔵菩薩を春日の能ひり  
 わく二十二月神誕生すはるるを神醫の道小御さく  
 佛靈社小を帯をまられ神禱あり  
 神後小若さむのふれ別係上那に裙帯の形を  
 其形を道とて安のふ若さむのふけり  
 わくは勅使とてふ神禱あり  
 是則惟仁親王と信たせり後小清和天皇とせむ  
 和天皇とせむをけり伽藍を神建立



わりの平産神飲の寺のわりの常解さく號と賜と信人夫かーは

和爾下神社二坐 横田村と標木村と小あり 諸道天皇と終に

龍腹寺 神殿村

奇異雜談集曰

しうくふふ小田かかして照り後小ありしとてまの後又かろこひの  
實かやのてふわはくく雨の所小法義八講と修りたる人程を我か  
一いつの儀より人ふりし小老翁只ひとりあり儀師ふひひ龍女  
成伴の文心肝小沼龍宮城といひ成伴土に思ひをかたけ被志ふれ  
雨かまよせんといとやとられしつれ小龍王大龍王のゆかしてやと海と  
してふくぬと命か害しはとよしく菩提よかかるとん命か病より  
もてとて華よりもつりつと命か捨く雨か儀とせん菩提儀師よ  
はらせむといひしとそねたまくとり後(虚空)とをせれば凡暴に  
まかちくと雨束軸のゆく泉舟艦とていふと人氏(轍)魚乃こ

外の水か求め篋名の一と小糸小細くありあり雨晴を清くおとふ  
ふりのやんかかきつるるも野を響りありやとんね龍といり  
とんねとあつりつるるもひら菩提とて龍頭寺龍尾寺龍腹  
寺とて二寺かまてとてひら今の龍腹寺其一つとて云

虚空藏寺 清澄在虚空藏村の本多虚空藏菩薩弘法大師從

小涌出と靈驗掲焉とり小井皇原く信かてて 積舎か造立の事大解  
自本かおみ虚空蔵の縁か造り銘額かやて名居たうむ什寶とて  
のつと實あ直雅真然真紹考相續く位職に定ふ所 室 止  
真雅の儀か清くけすまか管領の向みけく考像に宿と並とて小三か  
像か刻割く安ん平一水代に跡相承のますとてとん

清澄池 基樺村とあり其水清くして

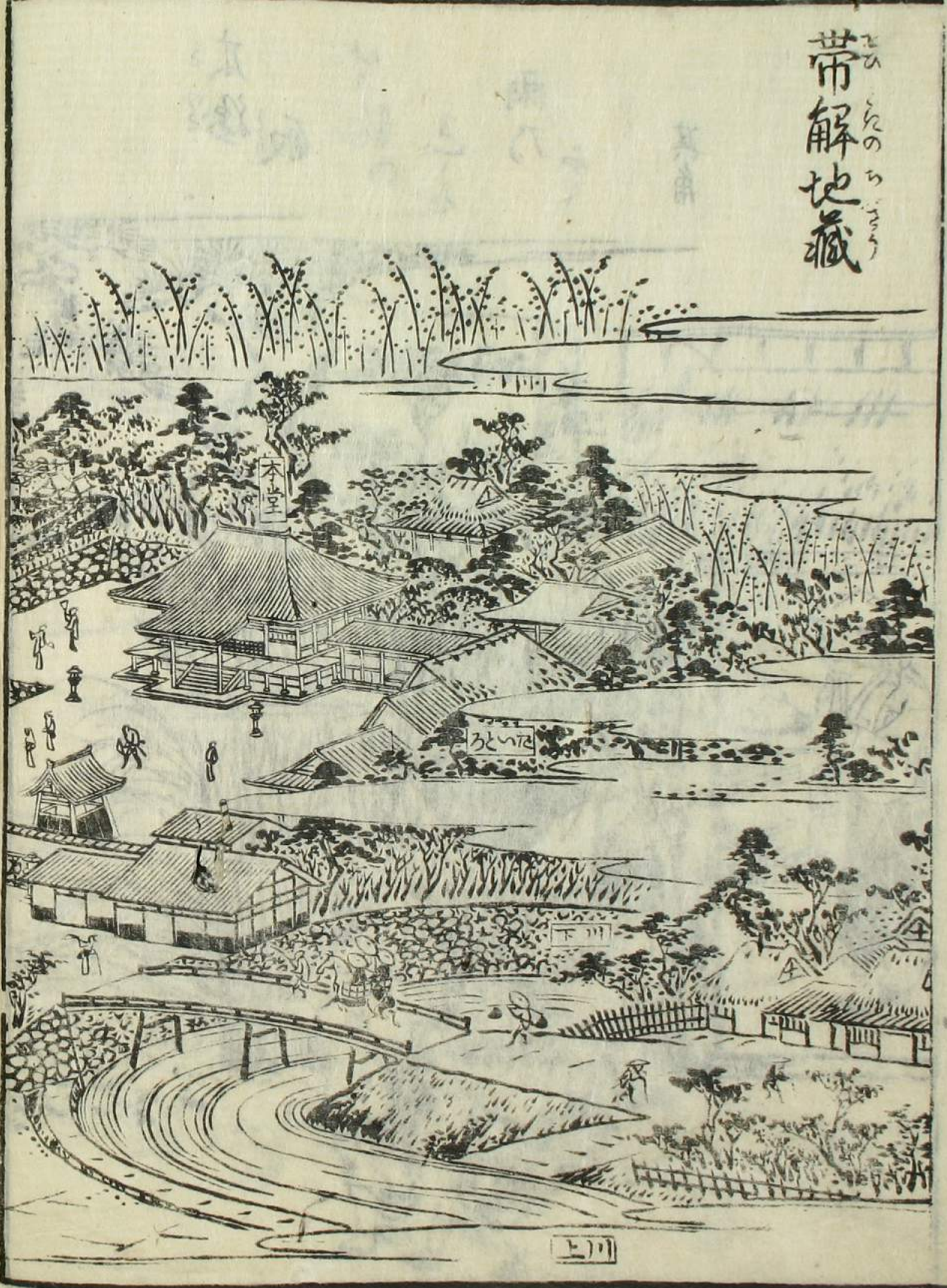
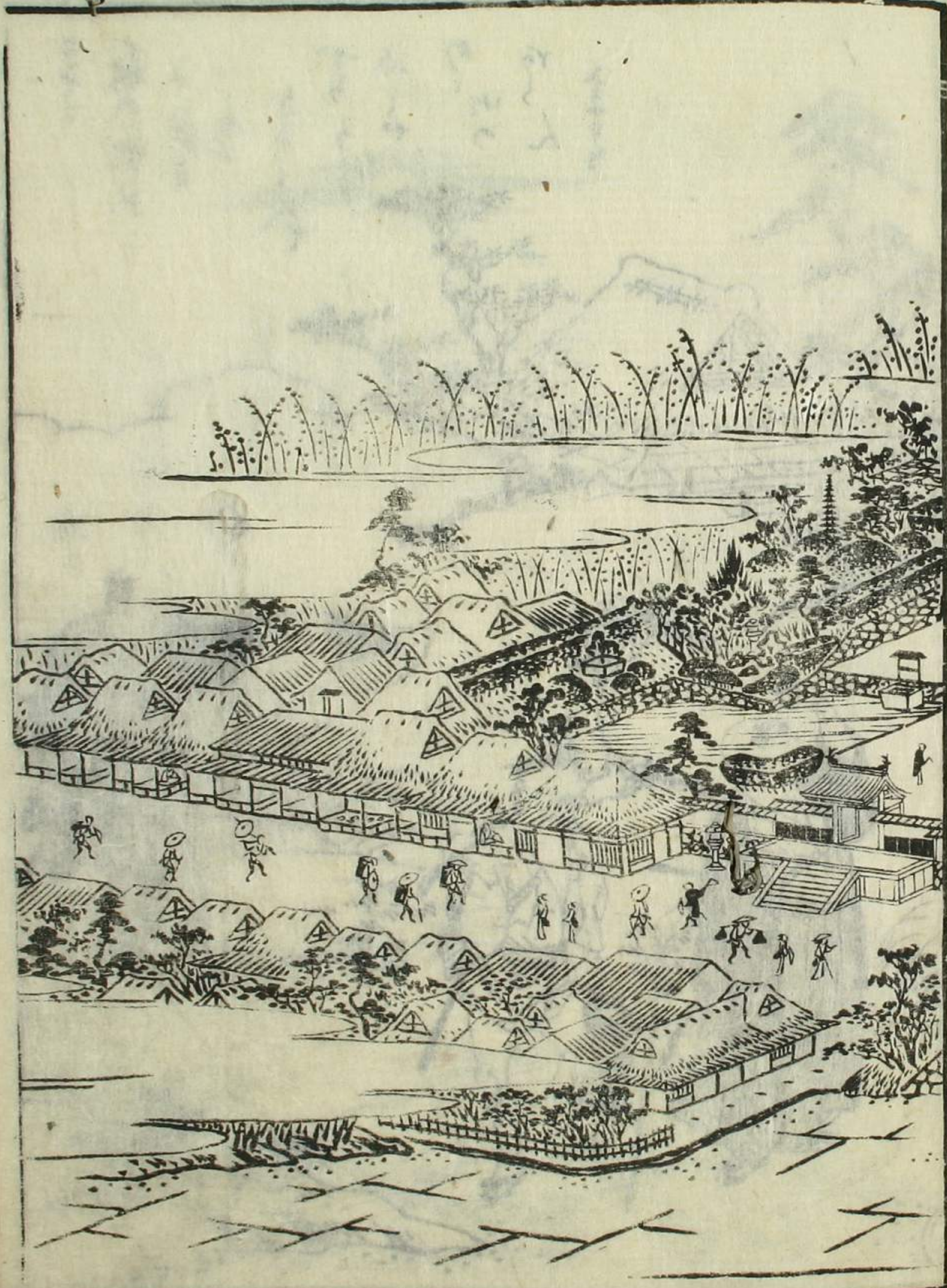
清澄の池 林根部神



其角  
雨乃  
其  
駒の  
本之  
後







帯解地藏

上川





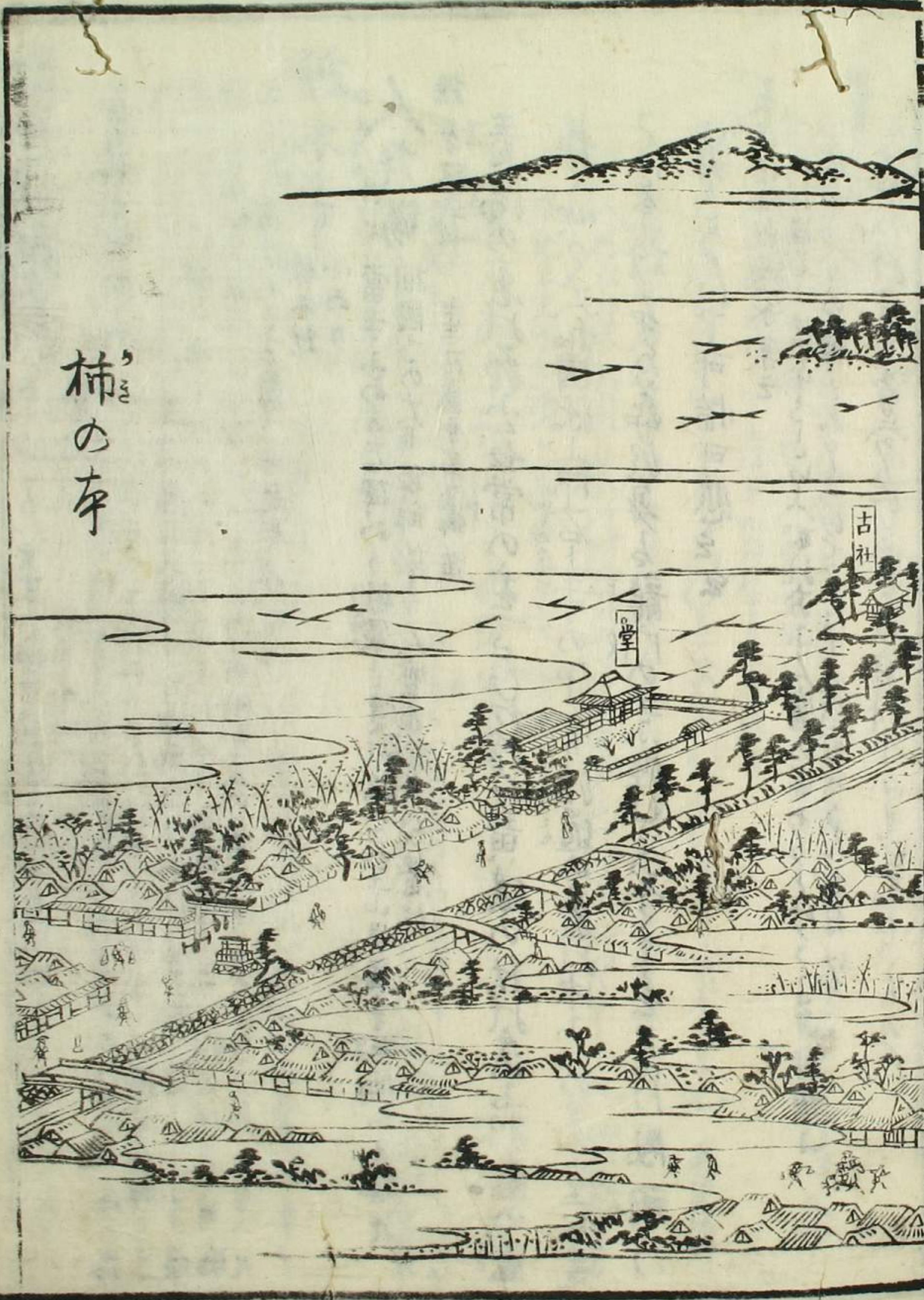
夕  
月  
こ  
極  
夕



夕  
月  
こ  
極  
夕

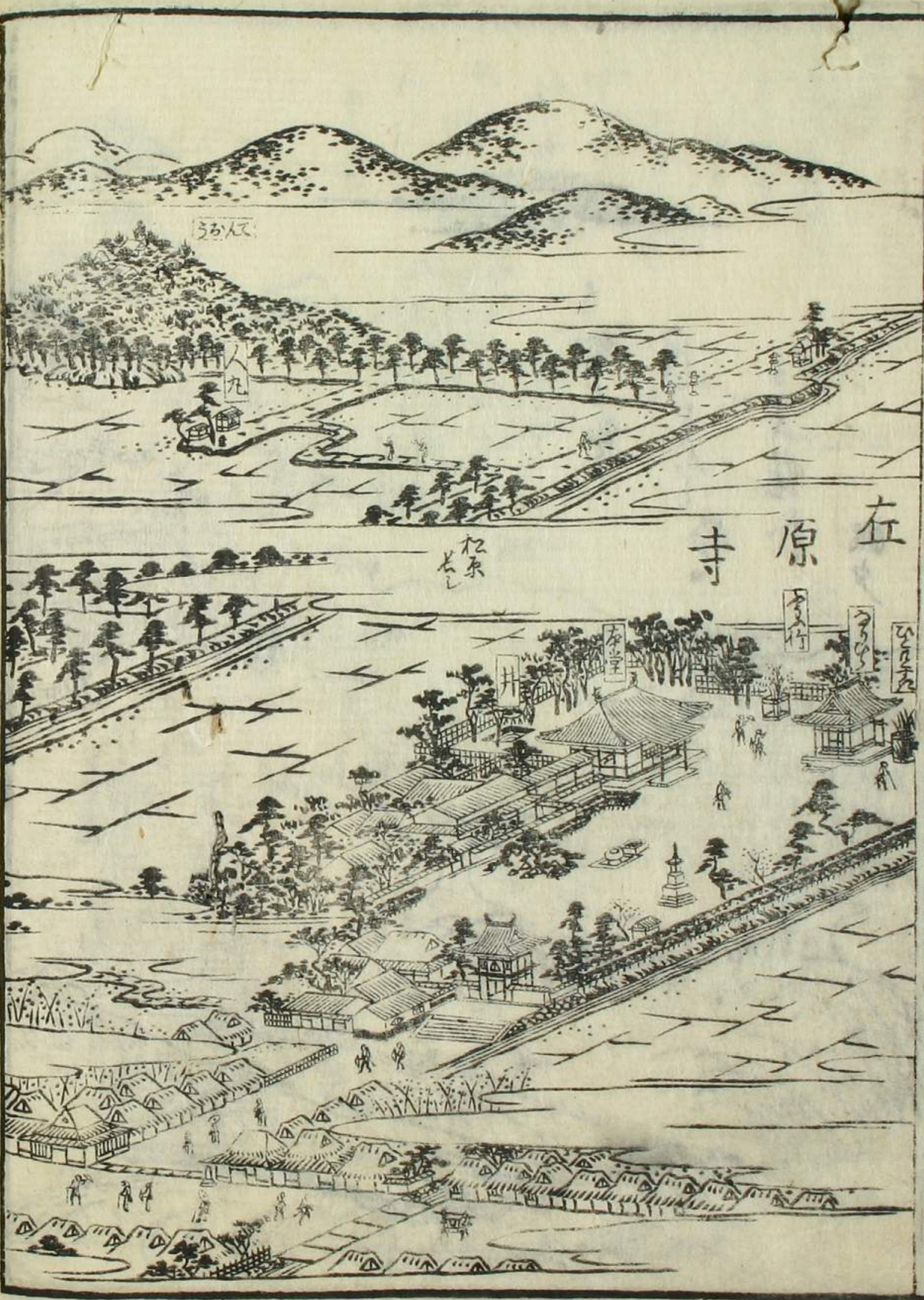


柿の原



古社

堂



35人反

松東

寺原在

寺

堂

行

行



菩提山正曆寺

奈久一里をたどり巽橋尾村のふもとに

本尊導師佛

龍樹院と号し寺中四十二坊あり

又ヶとて一開基の兼後僧正正暦年中に勅命ありて

柳本寺

標本村

人丸塚

當寺ふわり石碑あり歌家と書け銘に天王山佛國寺百拙和尚撰

標本寺記曰 主三位藤原家隆卿撰

青陽のまればふ世常のまていねの黄壤の林はあふ別離の嵐

長く吹く大和國海上郡石上寺のやうり治道のまれば中一のまきまき

くまふ村本を葬り身と龍門の土に埋むとくもとまきけ風雨乃

實しうらひと可惜可悲と云

長承清補新集

大和國石上村本寺とていふにふ人磨の塚ありとけり

むらみけとてまきけの歌をまきけ下ふとてまきけり

鴨長明無名抄曰

其後村のものともあやうくまきけり

王業

人丸の墓は大和國小あり初瀬へある道より人丸塚といひ

かへは所より歌塚とせりあり云々

人丸の墓はむらみけ村本明神にまきけり

或記云文明の初つゝ速款師長

種とあわふとてくもの早田くか

吉野詣日記云 道通院西二条 天文二十二年二月廿六日

け新にゆくとてゆい

種とあわふとてくもの早田くか

吉野詣日記云 道通院西二条 天文二十二年二月廿六日

け新にゆくとてゆい

種とあわふとてくもの早田くか

種とあわふとてくもの早田くか

種とあわふとてくもの早田くか

種とあわふとてくもの早田くか



大日本史曰

顯昭法師人丸勘文云藤原清輔後二條帝御代人嘗過大和

故老言漆郡石上寺傍有祠号治道社祠邊寺號柳本寺是人麻

呂所建也祠前小塚名人麻呂墓清輔往觀之所謂柳本寺礎石

僅存人麻呂墓高四尺許因建率都婆勒曰柳本朝臣人麻呂墓

顯昭按人麻呂没于石見豈移其遺骸於大和耶如平惟仲率于

宰府移其屍于洛東白河

大和名所圖會卷之二終



